

再び「モラトリウム」ニ就テ

ON MORATORIUM, A SECOND PAPER

教 授

中 村 宗 雄

PROF. M. NAKAMURA

1927

再ビ「モラトリウム」ニ就テ

中 村 宗 雄

I. 我國兩度ノ支拂延期令……II. 「モラトリウム」ノ概念ト其種類(特別支拂猶豫、一般支拂猶豫)……III. 「モラトリウム」ト其經濟的背景……IV. 「モラトリウム」ノ適用ヲ受クベキ債務……V. 私法上ヨリ觀タル支拂延期(猶豫)ノ意義(抗辯權説、權利實行停止説、履行期繰延説)……VI. 支拂延期令ノ施行ニ因ル法律上ノ諸問題……VII. 支拂延期令ノ條文上ノ缺陷……VIII. 結語……附録(參考書目、支拂延期令條文、司法省通牒)……

I. 我國兩度ノ支拂延期令

大正十二年秋、關東地方ノ大震災ニ當リ、初メテ我國ニ支拂延期令ノ施行セラレシコトハ、尙吾人ノ記憶裡ニ新タデアル。其後、未ダ數年ヲ經ザルニ、此度ハ、樞密院ガ臺灣銀行救済ニ關スル損失補償ノ緊急勅令案ヲ否決セルヲ近因トシテ、我國未曾有ノ經濟的恐慌ヲ捲キ起シ、亦々、同令ノ施行ヲ看ルニ至ツタノハ、財界安定ノ爲メ止ムナカリシトハ謂ヘ、眞ニ遺憾千萬ノコトデアアル。

此兩度ノ支拂延期令ハ、共ニ緊急勅令ノ形式ヲ以テ公布セラレ、條文ノ數モ同ジク三ケ條デアル。彼此其規定ヲ比較スルニ、

體裁ニ於テモ内容ニ於テモ略ボ同一ニテ、唯、彼ノ時ハ、支拂ヲ猶豫セラルベキ債務者ノ住所又ハ營業所ノ所在地ヲ、東京府神奈川縣、静岡縣、埼玉縣竝ニ千葉縣ノ五府縣ニ限レルニ對シ、此度ハ初メ之レヲ内地ト定メ、更ニ朝鮮、關東州（南滿鐵道附屬地ヲ含ム）竝ニ樺太ヲ追加シタル點ト、此度ハ施行期間竝ニ猶豫期間ヲ二十一日間（大正十二年ニハ三十日間）ト爲シ、銀行預金一日ノ支拂額ヲ五百圓以下（大正十二年ニハ百圓以下）ト定メタル點ガ些カ異ツタノミデアル。

此度ノ支拂延期令ハ、本年四月二十二日緊急勅令第九六號トシテ公布セラレ、即日施行セラレタノデアル。其概要ヲ述ブレバ、施行期間ヲ四月二十二日ヨリ五月十二日迄ノ二十一日間トシ、四月二十二日以前〔註一〕ニ發生シ、此期間内ニ辨濟期ノ到來スル私法上ノ金錢債務ニ對シ、元來ノ辨濟期日ヨリ、更ニ二十一日間其支拂ヲ延期シタ。即チ猶豫期間ヲ二十一日間ト爲シタノデアル（第一條）。

【註一】 此「以前」ニハ四月二十二日ヲ包含セザルモノト解スル。即チ四月二十一日、並ニ夫レ以前ニ發生セル私法上ノ金錢債務ニ限り、支拂ヲ延期セラレル。若シ二十二日ヲ包含スルモノトセバ、同日ニハ、理髮代金、飲食店ノ飲食代等、性質上相手方ニテ同時履行ノ抗辯ヲ爲シ得ザルモノニ就テ、凡ベテ二十一日間支拂ガ猶豫セラル、コト、ナリ、甚ダ不都合デアル。法文ノ用語不精確ノ譏リヲ免レヌ。

此支拂延期（猶豫）ニハ、地域ニ關スル制限ト、猶豫セラル、債務ニ關スル制限トガアル。即チ、第一條ハ、「勅令ヲ以テ指定

スル地區内」【註一】ニ住所又ハ營業所ヲ有スル債務者ノ負擔スル債務ニ限り支拂ヲ延期スル旨ヲ規定シ、第二條ニハ、私法上ノ金錢債務ニシテ「支拂猶豫」ノ適用ナキ債務ノ種類ヲ掲ゲテ居ル。尙第三條ニハ、手形其他之レニ準スベキ有價證券ニ關スル權利保存行爲ニ付キ、均シク二十一日間ノ猶豫期間ヲ規定シタルモ、果シテ此規定ガ必要ナリヤニ就テハ疑問ガアル。

【註一】 同令中ニ此地區ヲ指定セザリシハ、財界ノ形勢ニ因リ伸縮ノ餘地ヲ與ヘンガ爲メデアツタ。最初ハ同シク四月二十二日、勅令第九七號ニ依リ、「内地」ト指定シタルモ、更ニ同二十五日、勅令第九八號ニ依リ之レヲ「内地、朝鮮、關東州（南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）及樺太」ト改メタ。

數年前、余ハ「モラトリウムに關する研究」ト云フ論文ヲ本誌第三卷ニ發表シ、「モラトリウム」ノ沿革竝ニ本質ヨリ法律上ノ諸問題ニ論及シ、併セテ各國ノ立法資料ヲ提供シテ、斯法ニ規定スベキ事項ト其内容トヲ指示シタコトガアル。今再ビ我國ニ支拂延期令ガ施行セラレ、著シク一般ノ注意ヲ惹起シタ如クデアルカラ、「モラトリウム」ノ概念ヲ略記シ、特ニ我延期令ヲ中心トシテ法律上ノ諸問題ヲ論究シ、且ツ其批評ヲ試ムル。

II. 「モラトリウム」ノ概念ト其種類（特別支拂猶豫 一般支拂猶豫）

「モラトリウム」トハ、國家權力ヲ以テ私法關係ニ干涉シ、個人間ノ債務辨濟ヲ猶豫スルコトヲイフ。此制度ハ「ローマ」法

系ノ諸國ニ於テ組織的ニ發達セシ所ニカ、リ、其名ヲ「ローマ」法源ニ採ツテ「モラトリウム」Moratorium ト謂フ。【註一】我兩度ノ支拂延期令ガ「モラトリウム」法ナルコトハ、改メテ云フ迄モナイ。

【註一】 Moratorium トハ、第十五世紀ノ初葉、後期註釋法學派ガ儒帝法典ノ勅法典第一編第十九章第二條 (1.2 Cod. I. 19) 中ノ Praescriptio Moratoria カラ採ツタ名稱デアル。尙名稱ニ關スル詳細ハ、本誌第三卷所載拙稿『モラトリウム』ニ關スル研究二・三頁參照。

「モラトリウム」ハ、之レヲ大別シテ「特別支拂猶豫」Spezialmoratorium ト「一般支拂猶豫」Generalindult ト爲スコトガ出來ル。「特別支拂猶豫」トハ、權力者ノ特許又ハ裁判所ノ裁判ニ依リ、特定個人ノ債務ガ、一定期間支拂ヲ猶豫セラル、コトヲ謂ヒ、一時的支拂不能若シク困難ニ陷ツタ債務者ニ對シ、其支拂能力ヲ回復セシメンガ爲メニ許與スル制度デアル。又、「一般支拂猶豫」トハ、立法手段ニ依リ一般的ニ債務ヲ猶豫スルコトヲ謂ヒ、戰爭其他ノ原因ニ因リ一般財界ガ破綻ノ危險ニ瀕シタ場合、其救濟策トシテ施カレル。「一般支拂猶豫」ハ、規定ニ該當スル債務ニ對シ無差別ニ適用セラルノデアルガ、之レヲ施行スルニ至ツタ經濟事情ノ如何ニ因リ、其適用スベキ債務ノ範圍必ズシモ一定セズ、施行ノ地域モ、一國全體ニ及ボスコトアリ、又、特定ノ地域ノミニ局限スル場合モアル。我兩度ノ支拂延期令ハ、此「一般支拂猶豫」ニ屬スルモノニテ、前回ハ其施行地

區ヲ震災地域タル東京竝ニ附近ノ五府縣ニ限り、今回ハ之レヲ内地、朝鮮、關東州、樺太ニ及ボシテ居ル。

「モラトリウム」ノ沿革ニ就テハ、前掲ノ拙稿中詳細ニ記述シタコト故、爰ニ詳説スルノ勞ヲ省ク。【註一】概説スレバ、特別支拂猶豫」ハ、「ローマ」時代既ニ行ハレシ事例アルモ、主トシテ十字軍以後三十年戦争（1618—48）前後ニ至ル迄ノ間、歐洲大陸諸國ニ於テ盛ニ利用セラレ發達シタ。併シナガラ十七、八世紀以來ノ歐洲經濟組織ノ膨脹ト民權思想ノ發達トハ、此制度ヲシテ衰滅ノ轉機ヲ執ラシメ、債權者ノ利益竝ニ意思ヲ尊重シタル破産法中ノ協階契約乃至強制和議ノ制度ガ之レニ代ツテ發達シタノデアアル。【註二】反之、「一般支拂猶豫」ハ、古クヨリ「特別支拂猶豫」ト竝ビ存シタノデハアルガ、三十年戦争以來、「特別支拂猶豫」ノ衰頽ニ反比例シテ頓ミニ發達シ、世界大戰ニ際シテハ、英、獨、佛、奧、匈ヲ初メトシ、世界ノ約二十三ヶ國ガ施イタノデアアル。【註三】故ニ今日「モラトリウム」ト云ヘバ直チニ「一般支拂猶豫」ヲ意味スル。

【註一】本誌第三卷拙稿第二章、第三節參照。尙最近ノ早稻田學報（昭和二年六月號）所載ノ拙稿ニモ單簡ニ述ベテアル。

【註二】「特別支拂猶豫」ノ衰滅シタル原因ト經過トニ就テハ、前掲拙稿第二章第三節參照。我舊商法破産篇第一〇五九號以下ニ、債權者ノ過半數ノ承諾ヲ條件トスル支拂猶豫（特別）ノ規定ガアル。之レハ過去ノ「特別支拂猶豫」ヨリ現在ノ強制和議ニ變遷シタ中間的立法形式トシテ注目ニ價スル。現在ニ殘レル「特別支拂猶豫」ノ規定トシテハ、僅カ佛蘭西民法第一二四

四條第二項ヲ擧グルコトヲ得ルノミデアル。尤モ、世界大戰ニ際シテハ、獨、塊ハ裁判ニ依ル「特別支拂猶豫」ノ規定ヲ設ケタ（前掲拙稿一三五頁参照）。

【註三】 世界大戰ニ至ル迄ノ施行例ハ、前掲拙稿一五乃至一七頁ニ掲ゲテアル。尙同一七頁ニ、世界大戰ニ際シ本法ヲ施キタル國トシテ記載シタルノ外、「ロシア」支那、丁抹、「ギリシア」、「ホルトガル」、「ルクセンブルグ」ノ六ヶ國ヲ追加スル。

III. 「モラトリウム」ト其經濟的背景

凡ベテノ法律制度ガ、經濟的背景ヲ有スルコト勿論デアルガ、此「モラトリウム」程、時ノ經濟事情ト密接ナル關係ヲ有スルモノモ亦尠ナイ。歐洲諸國ニ於ケル此制度發達ノ跡ヲ顧ミルニ、國民的經濟組織ノ未ダ幼稚ナリシ中世紀ノ末葉ニ至ル迄ノ間ハ、主トシテ「特別支拂猶豫」ノミ行ハレ、近世紀ニ入り經濟組織ノ發達ト共ニ、「一般支拂猶豫」ガ發達シ之レニ替ツタ。其「一般支拂猶豫」モ亦、時代ノ變遷ト共ニ内容ニ於テ、革マリ、就中、第十九世紀ノ初葉ニ起レル産業革命ノ前後ニ於テ著シイ變化ヲ示シテ居ル。即チ一八〇七年ノ「プロシア・モラトリウム」法ニ至ル迄ハ、常ニ戰後ノ經濟政策トシテ利用セラレ、從ツテ猶豫期間ハ少クトモ數年ノ長キニ互リ、且ツ其適用ハ主トシテ不動産ニ關スル債務ニ限ラレタ。【註一】 然ルニ一八七〇年ノ佛蘭西「モラトリウム」法ニ及ムデ、戰爭開始ニ因ル財界ノ擾亂ヲ防止スルノ手段ト變リ、其適用ヲ取引上ノ債務ナル手形

債務ニ限ルト共ニ、猶豫期間モ最初僅カ一ヶ月間ト定メタニ過ギス。【註二】爾來、此制度ハ、戰爭ノ開始其他突發ノ事變ニ因スル財界ノ「パニック」ヲ鎮靜若シクハ防止スルノ手段トシテ、屢々各國ノ利用スル所トナリ、敏感ナル現代ノ經濟組織ニ缺クベカラザル制度トハナツタ。

【註一】 例之、一八〇七年プロシア「モラトリウム」法 *Verordnung wegen eines den Grundbesitzern zu bewilligenden Generalindults und wegen des Verfahrens in Moratorien-Sachen und bei gerichtlichen Exekutionen. Vom 19. Mai, 1807.* 尙本誌第三卷拙稿一四、五頁並ニ五一頁參照。

【註二】 *Loi relative aux échéance des effets de commerce, du 13 août 1870.* 尙前掲拙稿六二頁參照。

以上、「モラトリウム」制度ノ推移ノ跡ヲ要約スルナラバ、其經濟的必要ガ、個人的救濟ヨリ一般的救濟ニ移リ、又支拂能力回復ノ手段ヨリ、經濟の秩序ノ維持若シクハ回復ノ手段ト變レルモノト云フコトガ出來ル。【註一】即チ「特別支拂猶豫」ハ支拂ノ不能若シクハ困難ニ陷レル特定ノ債務者ヲ救濟シ、其支拂能力ヲ回復セシメンガ爲メ許與セラレタノデアアルガ、「一般支拂猶豫」ニ及ムデ、特定個人ノ救濟ヨリモ寧ロ一般的救濟ヲ主眼ト爲スニ至ツタ。而シテ一八〇七年ノ「プロシア、モラトリウム」法ニ至ル迄ハ、戰後ノ經濟政策トシテ、一般財界ノ支拂能力ヲ回復セシムル手段トシテ利用セラレタルモ、一八七〇年ノ佛蘭西「モラトリウム」法以來現今ニ及ムデ、「パニック」ニ際

スル經濟的秩序ノ維持若シクハ回復ノ手段トハナツタ。

【註三】 此變遷ニ就テハ本誌第三卷拙稿九一頁以下參照。

斯クノ如ク、其經濟的必要ニ於テ著シキ變遷ヲ見出スモ、此制度ガ、一時的支拂不能若シクハ困難ニ因ル支拂停止ヲ防止スルヲ其目的ト爲スコト、消極的救濟手段ナルコト、ハ、「特別支拂猶豫」ノ時代ヨリ一貫シテ渝ラザル特質デアル。【註一】從ツテ個人ノ破産ヲ防止シ、又、其支拂能力ヲ回復セシムル積極的救濟手段ハ、他ニ之レヲ覓メナケレバナラヌ。現今ノ「一般支拂猶豫」ノ如ク、主トシテ經濟的秩序ノ維持若シクハ回復ノ策ニ過ギザル場合ニ於テ特ニ其必要ガアル。例之、世界大戰ニ於ケル獨逸ノ「破産豫防ノ爲メニスル債務者ノ營業監督ニ關スル告示」若シクハ我關東ノ大震災ニ際スル緊急勅令「法人ニ對スル破産宣告ニ關スル件」ノ如キハ破産防止ノ立法デアリ、【註二】又、我國ガ大正十二年以來、數次財界救濟ノ爲メ制定シタル補償令乃至融資法ハ、【註三】孰レモ支拂能力ヲ回復セシムル積極的立法デアル。

【註一】 過去ノ「特別支拂猶豫」ニ於テハ、支拂不能ガ一時的ニシテ、全クノ無資力ニ陥ラザルコトガ、其許與ノ一條件デアツタ（本誌第三卷拙稿四一頁參照）。又、世界大戰ニ際スル獨逸「モラトリウム」法ハ、裁判上ノ支拂猶豫ヲ與フルニ就テ、裁判所ノ相當ト認ムル程度ノ擔保供與ヲ條件ト爲シテ居ル（前掲拙稿一三六頁參照）。

【註二】 本誌第三卷拙稿七一、八一、一三九頁以下參照。

【註三】 大正十二年九月二十七日緊急勅令第四二四號「日本銀行ノ手形割引ニ

因ル損失補償ノ件」昭和二年三月二十九日法律第二〇號「震災手形善後處理法」、本年五月第五三臨時帝國議會ヲ通過シタル「日本銀行特別融通及損失補償法」(法律第五五號)並ニ「臺灣ノ金融機關ニ對スル資金融通ニ關スル法律」(法律第五六號)。

IV. 「モラトリウム」ノ適用ヲ受ク可キ債務

「モラトリウム」ノ適用ヲ受クベキ債務ハ無制限デハナイ。此制度ノ沿革ト其施行ノ目的並ニ經濟的必要トニ因リ、自ラ制限セラレテ居ル。

第一 原則トシテ私法上ノ金錢債務ナルコト。

「モラトリウム」ハ、其目的トスル所、債務者ノ支拂停止ヲ防止スルニ在ルヲ以テ、其適用ガ原則トシテ金錢債務ニ限ラル、ハ素ヨリ當然デアルガ、金錢債務以外ノ引渡債務ニ履行猶豫ヲ爲セル例絶無デハナイ。沿革上、牛馬又ハ穀類等ノ引渡債務ニ「モラトリウム」ノ許與セラレシ實例アリ、又、世界大戰ニ際シテハ「モラトリウム」ノ適用ヲ金錢債務以外ノ引渡債務ニモ及ボセシ立法例ガアル。【註一】併シナガラ其適用ヲ受クルハ常ニ私法上ノ債務ニ限ラレ、公法上ノ債務、例之、租稅、公納金等ハ、「特別支拂猶豫」ノ時代カラ一貫シテ其適用ヲ受ケテ居ラス。

【註二】蓋シ公法上ノ債務ニ就テ支拂猶豫ヲ必要トスルトキハ、他ニ適當ナル其時限リノ手段ヲ執リシモノト考ヘラレル。【註三】

【註一】 例之、獨乙ハ、一九一四年八月十一日ノ商務省告示ニ依リ、商品引渡ノ債務ニ就テモ、其不履行ノ場合金錢債務ニ變更セラレ得ルモノナルトキ

ハ、裁判上ノ支拂猶豫ニ關スル規定ヲ準用スベキ旨ヲ定メテ (Verfügung des Handelsministers v. 11 August, 1914. JMBL. Nr.673)。本誌第三卷拙稿一三五頁參照。

【註二】 本誌第三卷拙稿四三頁參照。

【註三】 大正十二年關東地方大震災ニ因ル同年九月十二日緊急勅令第四一〇號「震災被害者ニ對スル租稅減免等ノ件」、大正十三年七月法律第四號「震災被害地ノ地租免除等ニ關スル件」、若シハ本年ノ宮津地方ノ大震災ニ因ル、昭和二年三月法律第一七號「震災被害者ニ對スル租稅ノ免除猶豫等ニ關スル件」ノ如キハ其例ト考ヘラレル。

以上述ブルガ如ク、私法上ノ金錢債務ニ限リ「モラトリウム」法ノ適用ヲ受クルノデアルガ、尙立法例トシテハ、特ニ除外セザル限り、一切ノ私法上ノ金錢債務ニ及ブ場合ト、手形債務ト云フガ如ク、適用スベキ債務ノ種類ヲ限定スル場合トガアル。

【註一】 我兩度ノ支拂延期令ハ、第二條ニ掲グル例外ヲ除キ一切ノ私法上ノ金錢債務ニ其適用ガアル。

【註一】 例之、一八七〇年ノ佛蘭西「モラトリウム」法並ニ同國ノ一九一〇年「モラトリウム」ニ關スル法律ハ、孰レモ其適用ヲ流通證券ノミニ限リ(本誌第三卷拙稿六二頁以下參照)、更ニ一九一四年世界大戰ニ於ケル英國ノ手形勅令 Bill-proclamation (八月二日)ハ爲替手形ノミニ關シ、又、獨逸ノ八月十日附告示 Bekanntmachung über die Fälligkeit im Ausland ausgestellten Wechsel, v. 10. Aug. 1914. RGBl. S. 388 ハ、外國ニテ振出サレタル爲替手形ノミニ關シ、支拂猶豫ヲ規定シテ居ル。

第二 「モラトリウム」施行期間開始前ニ發生シ、且ツ所定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スベキ債務ナルコト。

「モラトリウム」ヲ施ク經濟的必要ハ、既述ノ如ク中世ノ「特

別支拂猶豫」以來絶エズ變遷シ來ツタノデアルガ、現今ノ「一般支拂猶豫」ニ就テ之レヲ云フナラバ、戦争ノ開始其他突發ノ事變ニ際スル經濟的秩序ノ維持若シクハ回復ニアル。詳言スレバ、「一般支拂猶豫」ハ、私人間ノ債權債務ニ干涉シ、突發ノ事變ニ因ル其動搖ヲ鎮壓シテ、徐ニ經濟状態ノ鎮靜ヲ待チ、且ツ其鎮靜ヲ圖ルニアル。然ラバ其適用ヲ、問題タル事變突發前ニ發生シタル債務ニシテ、其事變ニ影響セラレタル時期ニ支拂ヲ爲スベキモノニ限ルヲ當然トスル。【註一】去レバ單リ我延期令ノミナラズ、各國ノ立法例ハ、均シク日ヲ劃シ、其日以前ニ發生シ、且ツ其日以後一定期間（施行期間）内ニ支拂ヲ爲スベキ債務ニ適用スベキモノト定メテ居ル。但シ此期間（施行期間）ハ事變ノ如何ニ因リ伸縮セラル必要アルヲ以テ、最初短カキ期間ヲ定メ、更ニ必要ニ應ジ延長スルヲ通常トスルモ、獨逸ノ外國爲替ニ關スル延期令ノ如ク、豫メ此期間ヲ定メザル立法例モアル。【註二】

【註一】 本誌第三卷拙稿八八、九頁並ニ一〇八頁参照。

【註二】 Bekunntmachung über die Fälligkeit im Ausland ausgestellten Wechsel, v. 10. Aug. 1914 (RGBI. S. 388) 其他各國ノ立法例ニ就テハ前掲拙稿第四章第一節参照。

要之、「モラトリウム」ハ、以上ニ該當スル私法的金銭債務ノミ之レヲ適用シ、其支拂ヲ、元來支拂ヲ爲スベキ日ヨリ一定期間（猶豫期間）猶豫スルモノデアル。我延期令亦然リデア

ル。我延期令ノ下ニ於テ問題トナルハ、施行期間開始前、既ニ辨濟期ノ到來シタル債務ナルモ、之レニモ亦適用スベキモノト信ズル。此點ハ後段ニ詳述スル。【註一】

【註一】 VI.「支拂延期令ノ施行ニ因ル法律上ノ諸問題」ノ第一參照。

V. 私法上ヨリ觀タル支拂延期（猶豫）Stundungノ意義（抗辯權說、權利實行停止說、履行期繰延說）

「モラトリウム」ニ關シ第一ニ問題トナルハ、私法上ヨリ觀タル支拂延期（猶豫）ノ意義デアル。換言スレバ、國家權力ニ依リ私法上ノ金錢債務ノ支拂ヲ延期シタル場合、因ツテ私法關係ニ於テ如何ナル效果發生セリト解スベキカト云フ問題デアル。此點ニ關スル學說ハ、大別シテ三ト爲スコトヲ得ル。猶豫期間中ハ支拂拒絶ノ抗辯權ガ被告ニ發生スルモノト爲ス說（抗辯權說）、此期間内債權ノ實行ガ停止セラル、モノト爲ス說（權利實行停止說）並ニ猶豫期間中債務ノ履行期ガ繰延ベラルモノト爲ス說、（履行期繰延說）是レデアル。【註一】 孰レノ說ニ據ルモ、格別ノ差異ナキ様ニ考ヘラレルノデアルガ、其實、「モラトリウム」ニ關スル殆ンド總ベテノ法律問題ノ核心ヲ爲ス重要ナル論點デアル。就中規定ノ單簡極マル我支拂延期令ノ下ニ於テハ、後段述ブルガ如ク、一切ノ解釋ト適用トガ此點ノ見解如何ニ左右セラレル。

【註一】 尙此外、「支拂猶豫」ヲ以テ、手形恩惠日ト同様、辨濟期日後一定ノ支

拂期間ヲ附セルモノト做ス説、並ニ契約ニ因ル履行猶豫ト同一ナル効果ヲ發生スルモノト看ル説アルモ、要スルニ此等ハ抗辯權説ノ變形ニ過ギザルヲ以テ、省略ニ從ツタ。詳細ハ本誌第三卷拙稿九六頁以下並ニ一〇四・五頁參照。

沿革上、「支拂猶豫」Stundung トハ、權力者ガ特定ノ債務者ニ「モラトリウム」ヲ許與シタル其特許ノ内容ヲ云ヒ、元來、公法的意義ヲ有スル。從ツテ「支拂猶豫」ト云フ用語自體ハ、何等私法上ノ意義ヲ有スルコトナク、又、因ツテ生ズル私法上ノ效果ヲ表示シ或ハ特定スルモノデモナイ。其私法上ノ意義並ニ效果ハ、法文ニ別段ノ定メナキ限り、「モラトリウム」施行ノ目的、其必要乃至其施行ニ因リ各般ノ法律關係ニ及ボス結果等ヲ考較シテ決スベキモノデアル。【註一】

【註一】 從來、「支拂猶豫」ノ私法上ノ意義ニ關シ、學說分歧シテ其一致ヲ見ザリシハ、沿革上「モラトリウム」制度ノ變遷ニ伴ヒ、此制度施行ノ目的範圍乃至効力等ガ推移シタ爲メデアル。其推移ノ經過ハ上段(III. 「モラトリウム」ト其經濟的背景)ニ於テ詳述シタ(尙此點本誌第三卷拙稿九一頁以下)。要之、特別支拂猶豫ノ時代ニハ、債務者個人ノ保護ヲ目的ト爲シタルヲ以テ、其身上特權乃至抗辯權ト考ヘラレタノデアルガ、「一般支拂猶豫」ニ及ムテ、債務者個人ヲ離レテ一般的救濟ノ目的ガ高調セラレシガ爲メ、個別的ナル債務者ノ身上特權乃至抗辯權ナル觀念薄ラギ、更ニ一般化セラレタル私法上ノ效果ヲ有スルニ至リ、今又、其私法上ノ效果如何ガ問題トナツテ居ルノデアル。

此問題ニ就テ特ニ論爭ヲ惹起シタノハ、爲替手形其他ノ流通證券ニ關スル一八七〇年ノ佛蘭西「モラトリウム」法デアル。同法ハ之レヲ外國手形ニモ適用セントシテ、其規定ヲ稍曖昧ト

セラレタルガ爲メ、【註一】甚ダシイ論争ノ因トナツタノデア
 ルガ、結局ニ於テ、満期日ヲ繰延ベタルモノト做ス説ガ理論的
 デアリ、且ツ有力デアツタ。爾來、手形債務ニ關シテハ「モラト
 リウム」ヲ以テ、満期日ノ繰延ト觀ルコト殆ンド定説トナリ、
 【註二】世界大戰ニ際セル英、獨、澳（第三回法）ノ「モラト
 リウム」法ニハ、孰レモ條文ニ於テ其旨ヲ明カニセラレタ。【註三】
 然ルニ手形債務以外ノ金銭債務ニ關シテハ、其機會ナカリシ爲
 メカ、從來餘リニ論及セラレテ居ラス。世界大戰ニ際シテハ、
 獨リ英國ノ「モラトリウム」法（第一回勅令）ガ、「辨濟期日ノ
 繰延」ト明白ニ規定シタルニ止マリ、佛、澳、匈ノ「モラト
 リウム」法ハ、依然トシテ「支拂猶豫」ト云フ用語ヲ踏襲シテ解
 釋上ノ疑問ヲ貽シタノデアツタ。

【註一】 本誌第三卷拙稿九六頁以下、並ニ一四八、九頁【註一】參照。

【註二】 Ehrenberg:—Handbuch des Handelsrecht, Leipzig, 1913. Bd. I. S.
 394.; Meyer:—Das Wechselrecht, Leipzig, 1909, Bd. II. S. 54.

【註三】 前掲拙稿九九頁以下、並ニ同五七、六九、八〇頁參照。

我兩度ノ支拂延期令ハ、手形債務ト夫レ以外ノ債務トノ間ニ
 區別ヲモ設ケズシテ、單ニ「支拂ヲ延期ス」ト規定シタニ止マ
 ル。議論百出スベキハ素ヨリ當然デアツテ、司法省、裁判所方
 面ノ見解モ亦一致シテ居ラス。以下我支拂延期令ニ基イテ上記
 諸説ヲ檢討シテ見ル。【註一】

【註一】 尙此問題ハ、本誌第三卷拙稿九一頁以下ニモ論ジテアル。彼此參照ヲ
 乞フ。

第一 抗辯權説

此制度ニ傳統シタル學說トシテ抗辯權説、即チ「支拂猶豫」ニ因リ、單ニ債務者ニ猶豫期間中、支拂拒絶ノ抗辯權ガ發生スト爲ス説、換言スレバ債務者ノ抗辯ニ因リ、支拂ガ猶豫セラルト做ス説ガアル。從來多クノ學者ニ依リテ支持セラレ、我國ニ於テハ、前回ノ延期令ニ就テハ此説ヲ採リシ者多クツタ。【註一】此度モ司法省、大審院方面ハ、大體ニ於テ此説ニ傾ケルモノノ如クデアル。

【註一】 眞野毅氏（震火災ト法律問題）、相原文雅氏（法學研究第二卷第三、四合併號）、清水郁氏（非公刊謄寫版、支拂延期令ニ就テ）等。尙此等所説ノ引用ハ、本誌第三卷拙稿一〇三頁以下參照。

此抗辯權説ハ、「支拂猶豫」ナル字義竝ニ其沿革ニ顧ミ、最モ無難ノ見解デアルガ、要スルニ「特別支拂猶豫」ニ就テ當レルノ説デアツテ、現今ノ「一般支拂猶豫」トハ相容レザルモノアリト考ヘラレル。即チ、現今ノ「一般支拂猶豫」ハ、既述ノ如ク一般の救済ニ依リ經濟的擾亂ノ防止若シクハ鎮靜ヲ圖ルニ在ルヲ以テ、其支拂延期ハ公共的性質ヲ有シ、齊一旦ツ一般のナルコトヲ要スル。然ルニ此説ニ遵ツテ、單ニ債務者ニ抗辯權ヲ發生セシムルニ過ギズト做スナラバ、支拂ノ猶豫ヲ受クルト否ト債務者ノ自由ニ委セラル、コト、ナリ、其結果トシテ、支拂猶豫ガ齊一旦ツ一般的ニ行ハレザルノミナラズ、猶豫期間内ト雖モ、債權者ニ於テ其履行請求ヲ爲スコトヲ妨ゲザルガ故ニ、

財界鎮靜ノ目的ヲ充分ニ達シ得ザルノ虞レガアル。

更ニ法律關係ノ方面ヨリ觀ルニ、抗辯權說ヲ採ルナラバ、猶豫期間内ノ履行請求ニ對シ、債務者ガ、積極的ニ「支拂猶豫」ノ抗辯ヲ爲スコトヲ怠ルニ因リ、遲滯ノ責ヲ負ハシメラル、ノミナラズ、若シ抗辯ヲ主張シタリトスルモ、爾後、争ヲ生ジタルトキハ、其立證責任ヲ負擔セシメラル、ノ不公平ガ生ズル。加之、多數當事者ノ債權關係ニ於テハ、債務者ガ抗辯權ノ行使ヲ二三ト爲スニ因リ、應々ニシテ、解釋シ難キ法律關係ノ混亂ヲ惹起シ、著シキ不公平ニ結果スルヲ免レ能ハヌ。就中、手形關係ニ於テハ、我延期令ガ、手形債務ニ就キ別段ノ規定ヲ設ケザリシト相待チ、著シキ不公平ヲ生ズル。【註一】

【註一】 抗辯權說ヲ採ルコトハ、手形關係ニ於テ殊ニ不都合ヲ生ズル。例之、(第一)支拂拒絕證書作成時期ガ不安定トナル。即チ、猶豫期間内ニ執達吏ガ引受人ニ支拂呈示ヲ爲シタル場合、引受人ガ「支拂猶豫」ノ抗辯ヲ爲サザルトキハ、拒絕證書ヲ作成シ得ルモ、此抗辯ヲ主張スルトキハ、猶豫期間内、其作成ヲ爲スコトヲ得ヌ。但シ此點ニハ反對說アリ得ルモ理由ニ乏シイ(後段二八頁參照)。(第二)以上ノ場合、引受人ガ「支拂猶豫」ノ抗辯ヲ爲セルト否トニ依リ、前者ノ償還義務、或ハ發生セズ或ハ發生スル。(第三)猶豫手形ノ所持人ガ前者ニ償還請求ヲニ爲セル場合、其前者ハ、引受人ニ呈示ナカリシコト、又ハ呈示アリシモ引受人ニ於テ「支拂猶豫」ノ抗辯ヲ爲セシ事實ヲ立證スル非ザレバ、其償還義務ヲ免レ能ハヌ。

第二 權利實行停止說。

斯クノ如ク「支拂猶豫」ヲ以テ債務者ノ抗辯ト觀ルコト不可能ナル所ヨリ、一轉シテ之レヲ債權ニ對スル直接制限ト做シ、

猶豫期間内、權利ノ實行ガ停止セラル、モノト觀ル説ガ生ズル。爰ニ謂フ權利實行停止説ガ是レデアル。此説ハ、一八七〇年ノ佛蘭西「モラトリウム」法ニ關シ現ハレタコトガアリ、【註一】今度ノ我支拂延期令ノ解釋トシテ之レヲ主張スル者モアル。

此説ハ、岐レテ、猶豫期間内、債權ノ總ベテノ實行ガ停止セラル、モノト做ス見解ト、元來、支拂ノ停止ヲ防止スルニアレバ、其停止ハ現實ノ辨濟請求ニ限ルト觀ル見解トアル。孰レニセヨ、權利ノ實行ガ停止セラル、結果トシテ、債務ハ猶豫期間内丈當然ニ其辨濟ヲ延期セラル、コト、ナルモ、後ノ見解ニ從フナラバ、猶豫期間内ト雖モ、相殺、催告等、現實ノ辨濟請求トナラザル程度ノ權利ノ實行ヲ妨ゲラレヌ。

此説ハ、カノ抗辯權説ト異ナリ、一見スル所、現代ノ經濟組織ガ、「一般支拂猶豫」ニ求ムル經濟的の必要ト洵ニ良ク合致スルモノノ如クデアルガ、更ニ推究スルトキハ、内容ヲ缺ク空疎ノ議論ナルコトヲ發見スル。即チ「支拂猶豫」ハ、私法上、債務者ノ抗辯權ヲ創設スルモノニ非ズンバ、之レヲ債權ニ對スル制限ト看ルハ當然ノ轉回デアル。併シナガラ、法文ニ「支拂ヲ延期ス」ト債務ノ方面ヨリ規定セルヲ、直チニ「債權實行ノ停止」ト解スルハ、論理的飛躍ノ嫌アルノミナラズ、「債權實行ノ停止」トハ、私法關係ニ對スル國家權力ノ干涉ヲ謂フモノト觀ルベク、「支拂猶豫」ト云フト同ジク、公法上ノ觀念デアツテ、私法上ノ夫レデナイ。吾人ハ、支拂猶豫ニ因ル私法上ノ效果ヨリ

推シテ、其私法上ノ意義ヲ知ラントスル。之レニ對シテ「債權實行ノ停止」トハ、内容ナキ解答ト云ハネバナラス。

要之、權利實行停止說ハ、現今ノ「モラトリウム」ノ客觀的方面ノミニ着眼シ、條文トノ調和竝ニ其内の考察ヲ忘レタル議論ニテ、到底採リ得ザル所說デアル。

第三 履行期繰延說。

最後ニ殘ルハ履行期繰延說デアル。即チ支拂猶豫ニ因リ債務ノ履行期ガ繰延ベラル、モノ、換言スレバ、猶豫期間丈、辨濟期日（手形ナレバ満期日）ガ延期セラレタルモノト做ス說デアル。從來ノ學說トシテハ、少クトモ手形債務ニ就テハ、之レヲ定說ト做スベク、世界大戰ニ際シ、英、獨等ノ「モラトリウム」法ガ、條文ニ於テ其趣旨ヲ明カト爲セシコト既ニ述ベタ所デアル。余ハ嚮ニ、我支拂延期令ノ解釋トシテ、各方面ヨリ論究シ此說ヲ支持シタノデアルガ、【註一】今日迄餘リ此說ニ左擔スル者ヲ見出サズ、結論ニ於テ相似タルモノアルモ、其論據概ネ曖昧デアツタ。【註二】然ルニ此度ノ支拂延期令ニ關シテハ、東京地方裁判所ノ部長會議ニ於テ、（手形關係ヲ除キ）此說ヲ支持スル者多數デアツタト謂フ。

【註一】 本誌第三卷拙稿一〇〇頁以下參照。

【註二】 例之、前回ノ延期令第三條ノ解釋ニ關スル大阪地方裁判所判事聯合會議ノ決議（前掲拙稿一二九頁參照）。今村恭太郎氏「震災後ノ私權保護ニ關スル善後策」（大正十二年十月八日發行法律新聞第二一六七號）。遊佐慶次氏「モラトリウム法ノ要旨」（昭和二年五月一日發行「イシヴェストメント」第

五卷第五號)

履行期繰延説ノ論據トスル所ハ、債務者ガ遲滯ニ陥ルコトナクシテ、當然其支拂ガ猶豫セラル、ハ、要スルニ其履行期ガ繰延ベラレタルニ外ナラズト云フニアル。即チ現今ノ「一般支拂猶豫」ハ、債務者ノ抗辯ヲ待ツコトナク、齊一旦ツ一般的ニ支拂ノ猶豫セラル、コトヲ要求スル。果シテ然ラバ、債務者ハ猶豫期間内其債務ノ辨濟ヲ爲サバルニ就キ、自ラ積極的ニ抗辯其他ノ方法ニ出デザルモ履行遲滯ニ陥ルコトナキモノト做サナケレバナラス。カ、ル效果ノ反面トシテ、債權者ハ、猶豫期間内履行ノ請求ヲ爲スモ、履行期到來前ノ請求ト同様其效ナキコトトナリ、權利ノ實行ヲ停止セラル、ニハ非ザルモ、夫レ丈實行ノ制限ヲ蒙ラザルヲ得ヌ。此關係ハ、債務ヨリ觀レバ猶豫期間内辨濟ヲ猶豫セラレシコトデアリ、債權ヨリ觀レバ履行ヲ請求シ得ル時期ガ繰延ベラレタルコトニ外ナラザルガ故ニ、結局ニ於テ「支拂猶豫」ハ、其適用アル債務關係ニ於テ履行期ヲ繰延ブルモノト看ルヲ至當トスル。

而シテ爰ニ謂フ「履行期ノ繰延」トハ、債務者ガ履行ヲ爲サザルモ、當然遲滯ニ陥ラザルトコノ反面ナルヲ以テ、次ノ如ク理解スルヲ必要トスル。

A. 「モラトリウム」施行前既ニ辨濟期ノ到來セル債權ニ就テハ、猶豫期間中辨濟期未到來ノ状態ニ復歸シ、其間債務者ハ遲滯ノ責ニ任ゼザルト共ニ、債權者ハ履行ノ請求ヲ爲ス

コトヲ得ヌ。【註一】但シ施行前ニ發生シタル遲滯ノ效果ハ、素ヨリ之レニ因ツテ消滅スルモノデナイ。

【註一】請求權ハ債務ノ履行期到來ニ依リ發生スルモノト做ス説ニ遵ヘバ、此場合、「モラトリウム」ノ施行ニ因リ、既ニ發生シタル請求權ガ一旦消滅シ其經過後再ビ復活スルモノト看ラレル（本誌第三卷拙稿一一二頁参照）。

B. 猶豫期間内、債權者ハ債務者ニ對シ現實ノ辨濟ヲ請求セセザル限り、催告其他權利保全ノ爲メノ請求【註一】ヲ爲スノ權ヲ失フモノニ非ザルト共ニ、債務者ハ、進ムデ辨濟ノ提供、供託、竝ニ相殺等ヲ爲スコトヲ妨ゲラレヌ。斯ク解スルガ、「モラトリウム」施行ノ目的ニ適フモノト考ヘラレル。

【註一】例之、民法第五七六條三項、同第六三七條一項ニ依リ、一年ノ期間内ニ爲ス損害賠償請求ノ如シ。

履行期繰延説ノ大様、以上述ブルガ如クデアル。「支拂猶豫」ヲ私法上ニ於テ斯ク解スルハ、法文ノ趣旨ト離レズ、又「モラトリウム」施行ノ經濟的必要トモ合致スルモノト考ヘラレル。然ルニ前記東京地方裁判所ノ部長協議會ニ於テハ、手形債務ニ限り、再考ト爲シ此説ヲ採ラザリシ由デアル。其理由トスル所ハ、延期令第三條ニ依リ、手形債權者ハ、元來ノ滿期日以後同條所定期間内何時ニテモ手形ヲ呈示シ、任意支拂ナキ場合ニハ直チニ支拂拒絕證書ヲ作成シ得ルモノナレバ、手形債務ニ就テハ、「支拂猶豫」ニ因リ、滿期日ガ繰延ベラレタリト看ルコトヲ得ズト云フニアル。

併シナガラ延期令第三條ハ、其文理ヨリ觀テ、此説ノ云フガ

如ク、所定ノ期間内ニ保存行爲ヲ爲シ得ル權利ヲ創設シタル規定ト做シ能ハザルノミナラズ、彼ノ說ニ遵ツテ、猶豫期間内任意支拂ナキコトヲ條件トシテ支拂拒絕證書ヲ作成セシムルナラバ、後段述ブルガ如キ著シキ不合理ヲ生ズル。【註一】加之、諸國ノ立法例ヲ考較スルニ、本條ハ戰爭其他ノ事變ニ因リ、手形上ノ權利保存行爲ヲ妨ゲラレタル場合、其期間ヲ延長スルノ規定ニシテ、【註二】前同ノ延期令ニ於テハ、主トシテ「支拂猶豫」ノ適用ナキ手形ガ、同條ニ依リ、震災地域ニ於テ爲スベキ權利保存行爲ノ期間ヲ延長セラレタノデアツタ。【註三】果シテ然ラバ本條ハ、我手形法ガ手形行爲ニ不可抗力ヲ認メザル救濟規定トシテ、唯、其權利保存行爲期間ヲ延長シタルモノト解スルラ至當トスル。【註四】此見解ニシテ謬ラズンバ、猶豫期間内、何時ニ手形ヲ呈示シ、且ツ支拂拒絕證書ヲ作成シ得ルヤハ、本條ノ關セザル所ト云フベク、本條アルガ爲メ、手形債務ニ關シテハ履行期繰延說ヲ採リ難シトハ、理由ノナキ所論デアル。

【註一】 後段二八、九頁參照。

【註二、三】 後段三五頁、本誌第三卷拙稿一三〇頁以下參照。

【註四】 要之、第三條ハ、不可抗力ニ因リ失權ヲ生セザル最長限度ヲ定ムル規定ニシテ、保存行爲ヲ爲スベキ時ハ、特ニ規定ノ存セザル限り、「支拂猶豫」ニ關スル學說ニ依ツテ決セラレル。佛蘭西、匈牙利ノ「モラトリウム」法ハ、本條ト同趣旨ニ、手形行爲期間ヲ延長スルト共ニ、他方猶豫期間内ノ支拂拒絕證書作成ヲ禁止シテ居ル（前掲拙稿一二九頁參照）。尙第三條ニ對スル批評並ニ我延期令ニ於ケル手形保存行爲ノ時期ニ就テハ、後段二八頁以下並ニ三五頁參照。

加之、現今各國ノ立法例ハ、少クトモ手形債務ニ關シテハ滿

期日ノ繰延ト爲スニ一致スルコト前陳ノ如クデアル。【註一】然ルニモ拘ラズ、反ツテ手形債務ニ關シテノミ履行期繰延說ヲ採ラザルハ、大勢ニ反スルノ議論ト云フベク、且ツ又、此繰延說ヲ排スルナラバ、恐ラク抗辯權說ニ據ルノ外ナカルベキモ、抗辯權說ハ殊ニ手形債務ニ就テ不都合ナルコト、是レ亦前段述ベシ所デアル。【註二】孰レニセヨ、他說ニ遵ツテ履行期繰延說ヲ採ラザルハ可ナリ、第三條ヲ論據トシテ手形債務ニノミ之レヲ排スルノ理由ヲ見出サス。

【註一】 本稿一四頁參照。

【註二】 本稿一六頁以下參照。

以上述ブル三說ヲ要約スルニ、權利實行停止說ハ、絶對ニ理論の根據ヲ缺クモ、抗辯權說ト履行期繰延說トハ、共ニ之レヲ支持スベキ相當ノ理由ヲ有スル。抑モ「モラトリウム」ハ、各般ノ法律關係ニ波瀾ヲ來サシムルコト、平靜鏡ノ如キ水面ニ一塊ノ石ヲ投ズルニ均シキモノナレバ、規定ニ乏シキ我延期令ノ下ニ於テハ、孰レノ說ニ據ルモ、多少ノ矛盾ト不公平トノ生ズルヲ免レヌ。此意味ニ於テ、履行期繰延說ハ第三條ト衝突ストカ、抗辯權說ニ據ラズンバ、猶豫期間内ノ利息、催告、相殺等ノ問題ニ就テ妥當ナル解釋ヲ與ヘ得ズト云フガ如キハ、枝葉ニ至ル末ノ議論デアル。【註一】要ハ、當該「モラトリウム」施行ノ目的ト當時ノ經濟的必要トニ依リ、孰レノ說ニ遵フベキカヲ決スルノ外ハナイ。

【註一】 加之、此等ノ點ハ、孰レモ後段Ⅶニ於テ述ブルガ如ク、兩説トモ、妥當ナル解釋ニ臻ル餘地アルモノニシテ、若シ其餘地ナシトスルナラバ、开ハ法文ノ缺陥ト看ルベキデアル。

議論、爰ニ至ツテハ、各人ノ見解自ラ異ナルモ、吾人ヲ以テ云ハシムレバ、今回ノ延期令施行ニ際シテハ些カ問題ナリトスルモ、嚮ニ大正十二年ノ大震災ニ際シテハ、勿論單純ナル抗辯權ヲ創設スルニ止マラズ、履行期ヲ繰延ブル必要アリシコトニ疑ハナイ。然ラバ、今回ハ彼ノ時ト同一ナル條文ガ施行セラレシモノナレバ、特ニ有力ナル反對ノ理由ナキ限り、同ジク履行期ヲ繰延ベタルモノト看ルヲ最モ穩當ナリト信ズル。

VI. 支拂延期令ノ施行ニ因ル法律上ノ諸問題

「モラトリウム 法ハ、權カヲ以テ私法關係ニ干涉スル非常立法トシテ、「私法上ノ自治」private Autonomie ノ大原則ニ對シ正面衝突ヲ爲スモノデアル。從ツテ其施行ハ、唯單ニ私法上ノ金錢債務ガ其支拂ヲ延期セラル、ト云フコトノミニ止マラズ、必然的ニ廣汎ナル範圍ニ互リ各般ノ法律關係ニ影響ヲ及ボシ波瀾ヲ來サシムル。去レバ「モラトリウム」ヲ施行スルニ當リテハ、單ニ「支拂猶豫」ノ期間ト範圍トヲ規定スルノ外、尙各方面ニ互リ調和規定ト救濟規定トヲ設クルニ非ズンバ、遂ニ解決シ得ザル難問ト、救濟シ得ザル不公平トニ陥ラザルヲ得ヌ。是レ世界大戰ニ際スル英、獨、佛、澳、匈ノ「モラトリウム 法ガ、擧ツ

テ詳細ナル規定ヲ設ケタ所以デアアル。【註一】然ルニ我支拂延期令ハ規定ヲ設クルコト僅カ三ケ條、此邊ノ注意ヲ全ク閑却シ去リタルノ結果トシテ、上述ノ如ク「支拂猶豫」ノ意義ヲ明確ニセザリシコト、相俟チ、因テ起ル各般ノ法律問題ニ數多ノ議論ヲ生ズルノ餘地ヲ貽シタノデアアル。外國ノ立法例ニ就テハ既ニ詳細ニ述ベタルコトアリ、爰ニハ省略ニ遵フコト、爲シ、我今回ノ延期令ノ下ニ於テ生ズル重ナル問題ヲ擧ゲ、單簡ニ論評シテ看ル。【註二】

【註一】 本誌第三卷拙稿第四章第一節參照。

【註二】 各問題ニ關スル外國ノ立法例ハ、前掲拙稿第四章第四節以下ニ於テ詳細ニ論述シタ。此處ニハ單ニ我今回ノ支拂延期令ヲ中心トシテ、二三ノ說ヲ掲ゲ、余ノ懷抱スル意見ヲ明カニスルニ止ムル。從ツテ、今回ノ延期令ト關係ナキ問題ハ前掲拙稿ニ讓ツテ置ク。

第一 施行期間開始前既ニ辨濟期ノ到來セル債務ノ「支拂猶豫」

我今回ノ延期令第一條ニハ「昭和二年四月二十二日以前ニ發生シ同日ヨリ同年五月十二日迄ノ間ニ於テ支拂ヲ爲スベキ私法上ノ金錢債務」ト云ヒ、四月二十二日以前ニ辨濟期ノ到來セル債務ヲ包括セザルガ故ニ、其正面解釋トシテ此等債務ガ「支拂猶豫」ノ適用ヲ受ケザルコト明カデアアル。前回ノ延期令亦同様デアアル。併シナガラ「モラトリウム」施行ノ目的ヨリ觀テ、カカル債務ヲ其適用ヨリ除外スルノ理由ナク、否、反ツテ之レニ適用スルノ必要アリト云ハナケレバナラス。嚮ニ余ハ「モラトリウム」施行ノ根本精神ニ照シ、其適用アルモノト解釋スベキ

旨ヲ力説シタノデアツタ。【註一】其解釋トシテハ、凡ベテ施行前辨濟期ノ到來セル債務ヲ、施行期間開始ノ日、今回ノ延期令ニ就テ云ハバ四月二十二日ニ「支拂ヲ爲スベキ」債務ト看ルベク、然ラバ施行期間終了ノ翌日ニ當ル五月十三日迄支拂ヲ猶豫セラレタルコト、ナリ、從來ノ立法例トモ一致スル。【註二】前回ニハ此見解ニ多少ノ反對ガアツタノデアルガ、此度ハ幸ニモ司法當局モ此見解ト一致スルニ至ツタ。【註三】

【註一】 本法第三卷拙稿一〇九五頁参照。

【註二】 前回ノ延期令ニ於テモ亦同様デアル。本稿三三頁参照。

【註三】 昭和二年四月二十八日司法省民事局長ヨリ各地方裁判所長ニ對スル通牒(本稿末尾ニ轉載) 参照。

第二 猶豫期間内ニ於ケル債權者債務者ノ行爲ノ効力

猶豫期間内、債權者ガ其債權ノ辨濟ヲ請求シ、且ツ其債權ニ基キテ留置權ヲ主張シ得ルヤト云フニ、抗辯權説ニ依レバ共ニ之レヲ妨ゲザルモノニシテ、唯、債務者ハ「支拂猶豫」ノ抗辯ヲ爲スニ因リ遲滯ノ責ニ任ゼザルニ過ギヌ。然ルニ履行期繰延説ニ依レバ、債權者ハ猶豫期間内、共ニ之レヲ爲スコトヲ得ヌ。從ツテ辨濟期ノ到來セル債權ニ就テモ、猶豫期間内辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得ザルモ、之レニ因リ既ニ發生シタル留置權ハ消滅セザルモノト解セネバチラス。

銀行ノ當座預金者ハ、延期令施行後ノ預入金額ニ對シテハ勿論、施行前ノ預入金額ニ對シテモ、施行期間内、小切手ヲ振出

スコトヲ妨ゲラレス。但シ銀行ハ施行前ノ預入金ニ對シテハ一日五百圓ヲ限度トシ、超過セル金額ニ就テハ、「第一」ニ掲ゲタル種類ノ債權トシテ、施行期間終了ノ翌日迄支拂ガ猶豫セラルル。

轉ジテ債務者ハ、猶豫期間内、債務ノ辨濟提供、供託又ハ自ラ有スル債權トノ相殺ヲ爲シ得ルヤト云フニ、抗辯權說ヲ採ルナラバ素ヨリ妨ゲザル所ナルモ、履行期繰延說ヲ採ルモ、同様ナル解釋ヲ爲シ得ルコト、同說ノ説明ニ際シ之レヲ述ベタ。【註一】

【註一】 本誌第三卷拙稿一一二、一二二頁參照。

第三 猶豫期間内ノ利息

利息ハ元本使用ノ對價ナルヲ以テ、猶豫期間内ト雖モ、約定利息アルトキハ其約定利息、又商人間ノ債務其他法定利息ヲ請求シ得ルモノニ就テハ、其法定利息ヲ請求シ得ルコト當然デアル(商二七五條
民四〇四條)。併シナガラ遅延利息ハ、履行期繰延說ニ據ルトキハ勿論、抗辯權說ニ據ルモ、債務者ノ抗辯アルトキハ、猶豫期間内ニ於テハ發生セヌ。蓋シ債務者ノ遲滯ナキガ故デアル。去レバ、無利息債務ニ就テハ、債務者ハ猶豫期間ニ對シ、遂ニ何等ノ利息ヲ請求シ得ヌコト、ナル。洵ニ規定ノ缺陷ト云ハナケレバナラス。【註一】

【註一】 本誌第三卷拙稿一一二頁參照。

問題トナルハ手形債務デアル。手形債務ニ就テハ、履行期繰延說ニ據レバ、猶豫期間内ノ利息ヲ全ク請求シ得ザルモ抗辯權說

ニ據レバ、猶豫期間内被告ノ抗辯ナキガ爲メ拒絶證書ヲ作成シ、【註一】又ハ猶豫期間經過後ニ支拂ナキガ爲メ拒絶證書ヲ作成シタルトキハ、元來ノ満期日以後ノ法定利息ヲ請求シ得ル(第四九一條)。但シ、商人間ニ屢々行ハル、ガ如ク、手形債務ノ成立ト牽連シテ同一債務目的ノ消費貸借其他ノ契約ヲ取結ビ、又ハ手形ノ發行ニ因リ舊債務ヲ消滅セシメザリシトキハ、其併存ノ契約又ハ舊債務ニ基キ、猶豫期間ニ對シ約定利息ヲ請求シ得ルハ勿論デアル。

【註一】 猶豫期間内何時ト雖モ、債務者ノ抗辯ノ有無ニ拘ラズ拒絶證書ヲ作成シ、猶豫期間終了後、商四九一條ニ定ムル金額ノ償還請求ヲ爲シ得ト云フ説アルモ、採用シ得ヌ。詳細ハ後段拒絶證書ノ作成時期ニ牽連シテ述ブル。

第四 猶豫期間内ニ於ケル消滅時効並ニ除斥期間ノ進行

問題トナルハ、此等期間ガ猶豫期間内ニ進行ヲ開始シ、又ハ完成スベキ場合デアル。履行期繰延説ニ依レバ、猶豫期間内消滅時効ノ進行開始セザルト同時ニ、其完成モ亦妨ゲラレル。其完成ノ時ハ第一六一條ヲ準用シテ施行期間終了後二週間ヲ經タルトキト解スルヲ至當トスル。反之、抗辯權説ニ據レバ、消滅時効ノ進行開始モ其完成モ、共ニ猶豫期間内ニ於テ行ハレル。除斥期間ニ就テハ、孰レノ説ニ遵フモ、其性質上支拂猶豫ニ因リ開始並ニ完成ヲ妨ゲラレヌ。【註一】

【註一】 消滅時効並ニ除斥期間ニ關スル詳細ハ、前掲拙稿一一五、六頁參照。

第五 拒絶證書作成時期

何時ニ於テ商法第四八七條ニ因ル支拂拒絶證書ヲ作成シ得ルカト云フニ、履行期繰延説ニ據レバ、勿論猶豫期間終了ノ日タル新満期日又ハ其後二日內ナルモ、抗辯權説ニ據ルナラバ、延期令第三條ノ規定ニ遵ヒ、元來ノ満期日ヨリ猶豫期間終了二日後ニ至ル迄、何時ト雖モ支拂呈示ヲ爲シ得ベク、而シテ債務者ガ之レニ對シ支拂猶豫ノ抗辯ヲ爲サルトキハ、支拂拒絶證書ヲ作成シ得ルガ、此抗辯ヲ爲セルトキハ猶豫期間ノ終了ヲ待タネバナラヌ。【註一】

【註一】 尙手形債務ニ關スル詳細ハ、本誌第三卷拙稿一二三頁以下参照。

此度ノ延期令ノ解釋トシテ、司法省、裁判所ノ方面ハ、以上ノ見解ト異ナリ、抗辯權説ヲ前提トシテ(?)第三條ニ定ムル期間内何レノ時ニテモ手形ヲ呈示シ、任意支拂ナキ場合ニハ直チニ支拂拒絶證書ヲ作成シ得ルモノト決定シタ。其論據ハ、商法第四八七條又ハ延期令第三條ニ在ルモノノ如クデアアルガ、孰レモ理由ガナイ。

- A. 商法第四八七條ニハ「支拂ナキトキ」トアルヲ以テ、猶豫期間内任意支拂ナキトキハ、直チニ支拂拒絶證書ヲ作成シ得ルガ如クニ解セラレル。併シナガラ「支拂猶豫」ノ抗辯ヲ爲スコトハ、支拂拒絶ニ非ズ、又前者ノ償還義務ハ、支拂拒絶ニ因ツテ發生スルモノ故、假令、猶豫期間内ニ支拂拒絶證書ヲ作成スルモ、更ニ期間ノ経過ヲ待チ、改メテ手形ヲ呈示シ支拂ヲ拒絶セラル、ニ非ザレバ、前者ニ對シ

償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヌ。斯クノ如クンバ、支拂拒絶證書作成ノ意義全ク没却セラル、ノミナラズ、直チニ前者ニ對シ償還請求ヲ爲シ得ザルニモ拘ラズ、尙商法第四八七條ノ二、第四八八條ノ規定ニ因リ拒絶證書作成ニ引續キ順次前者ニ償還請求ノ通知ヲ發スベキノ不合理ヲ生ズル。去レバ商法第四八七條ノ「支拂ナキトキ」トハ支拂拒絶ノ意ト解スベク同條ヲ以テ、猶豫期間内、債務者ノ抗辯アルモ尙支拂拒絶證書ヲ作成シ得ルノ論據ト爲シ能ハヌ。

- B. 尙又、延期令第三條ハ、手形ノ權利保存行爲期間ヲ延長シタル規定ナレバ、所定ノ期間内ハ、何時ニテモ保存行爲ノ一タル支拂拒絶證書ノ作成ヲ妨ゲヌト云フ。併シナガラ同條ハ、單ニ手形上ノ權利保存行爲ノ期間ヲ伸長スルニ止マリ、猶豫期間内ニ保存行爲ヲ爲シ得ル權利ヲ創設スルモノニ非ザルコト、前段述ベシ所デアル。【註一】強イテ同條ニ據リ猶豫期間内ニ支拂拒絶證書ノ作成ヲ認ムルモ、A.ニ於ケルト同一ナル不合理ノ發生ヲ免レヌ。要之、第三條ヲ論據トシテ、債務者ノ抗辯アルモ、尙猶豫期間内ニ支拂拒絶證書ヲ作成シ得ト爲スハ、全ク其理由ヲ缺ク。

【註一】 前段二〇頁以下參照。

第六 「支拂猶豫」ト民事訴訟

「支拂猶豫」ハ、雷ニ私法上ノ效果ヲ發生スルノミニ止マラズ、

猶豫債務ニ關スル民事訴訟手續、亦之レニ因ツテ影響セラレ
ル。今爰ニ其影響ヲ、判決手續ニ於ケルト、強制執行手續ニ於
ケルトニ分説スル。

A. 判決手續 權利實行停止説ニ據ルナラバ、猶豫期間内
猶豫債務ニ關スル判決手續ハ全ク停止セラルベク、訴ノ提
起亦不適法トナルモ、此説ノ採ル可カラザルコト既ニ之レ
ヲ述ベタ。履行期繰延説並ニ抗辯權説ニ依ルナラバ、手續
トシテハ、全然「支拂猶豫」ニ因リ影響ヲ蒙ラザルモノニ
シテ、猶豫期間内ト雖モ、訴ノ提起、口頭辯論ノ進行並ニ
判決ノ言渡シヲ妨ゲヌ。但シ口頭辯論終結ノ時ガ猶豫期間
内ニ存スルトキハ、請求棄却ノ判決ヲ爲スベキヤ、將來ノ
給付判決ヲ爲スベキヤハ問題ナルモ、余ハ將來ノ給付判決
即チ猶豫期間ノ終了ヲ條件トシテ給付ヲ命ズル判決ヲ爲ス
ベキモノト信ズル。

猶豫期間内、支拂命令ヲ發シ得ルヤト云フニ、支拂命令
ハ現在ノ給付ニ限ラル、ヲ以テ、履行期繰延説ニ據ルナラ
バ之レヲ否定シナケレバナラヌ。但シ裁判所ハ其申請ヲ却
下スルコトナク、猶豫期間ノ終了ヲ待ツヲ當然トスル。抗
辯權説ニ據ルナラバ、猶豫期間内ト雖モ支拂命令ヲ發シ得
ルコト言フ俟タス。

B. 強制執行手續 猶豫債務ニ關シ、前段Aニ述ブル將來
ノ給付判決ノ言渡サレタル場合ニハ、民訴第五二九條ニ所

謂「或ル日時ノ到來ニ繫ル」請求ノ主張トシテ、猶豫期間ノ終了ヲ待チ、初メテ強制執行ヲ開始シ得ベキコトニ異論ガナイ。問題ハ夫レ以外ノ債務名義、即チ現在ノ給付判決並ニ民訴第五五九條第五號ニ掲グル公正證書等ノ場合デル。履行期繰延説ニ據ルナラバ、猶豫期間内、執行文ノ付與乃至執行ノ委任等ハ之レヲ妨ゲザルモ、執行ノ開始ハ、同ジク民訴第五二九條ニ依リ猶豫期間ノ終了ヲ待ツベキモノニシテ、又既ニ開始セル事件ハ、執行機關ガ職權ヲ以テ其進行ヲ停止スルコトヲ要スル。反之、抗辯權説ニ據ルナラバ執行機關ハ猶豫期間内ト雖モ、執行ノ開始、續行又ハ其終結ヲ妨ゲザルモノニシテ、唯、債務者ヨリ「支拂猶豫」ノ抗辯ヲ主張セラレタルトキハ、民訴第五五〇條第四號ニ準ジ、其執行ヲ停止スルコトヲ要スル。

假差押ハ、執行保全手續ニ過ギザルヲ以テ、猶豫期間内ト雖モ當然ニ許サレル。

以上ハ、我支拂延期令ニ適當ナル規定ナキガ爲メニ發生スル法律問題ノ主ナルモノデアル。此等ニ關シテハ、假令延期令ニ其規定ナシトスルモ、私法法規ト相俟チ、衡平ナル結果ニ順致スルノ餘地亦存スルノデアルガ、夫レ以外、延期令ニ規定ヲ缺除スル結果トシテ、遂ニ不公平ニ結果スルヲ如何トモ爲シ難キ場合ガアル。例之、双務契約ニ因ル金錢債務ノ「支拂猶豫」、施行期間内ニ於ケル債務者遲滯ニ因ル契約解除等ニ關連シテ發

生スル。【註一】 將來ノ「モラトリウム」立法ニ於テ留意スベキノ點デアル。

【註一】 本誌第三卷拙稿第四章第四節第四款 施行期間内ニ於ケル双務契約ノ履行、第五款 債務者遲滞並ニ契約ノ解除、第七款 生命保險ニ關スル問題、第五節第三款 白地手形ノ補充等參照。

VII. 支拂延期令ノ條文上ノ欠陥

我兩度ノ延期令ハ、條文ヲ設クルコト共ニ僅カ三ヶ條、前項 VI. ノ説明ニ因ツテ明カナルガ如ク、必要ナル規定ニ於テ殆ソド缺ケタルノミナラズ、僅カ三ヶ條ノ條文自體ニ於テ、重大ナル矛盾ト缺陷トガ包藏セラレテ居ル。

第一「支拂延期」ナル用語ヲ避ク可カリシモノデアル。

「支拂延期」(猶豫)トハ、沿革上此制度ニ用キラレ來ツタ用語ニシテ、元來公法上ノ意義ヲ有シ、夫レ自體何等私法上ノ效果ヲ表示セザルコト、既ニ之レヲ述ベタ。【註一】 而シテ其私法上ノ效果モ、此制度ノ變遷ニ伴ヒテ推移シ、時ニ依リ所ニ依リ、必ズシモ一定セザリシガ爲メ、種々異說ヲ生ジタノデアル。此疑義ヲ去ランガ爲メニハ、其私法上ノ效果ヲ條文ニ於テ明カニスル必要ガアル。加之、最近ノ「モラトリウム」法ハ、單ニ支拂猶豫ヲ規定スルノミニ止マラズ、之レト牽連スル各般ノ法律關係ニ付キ、種々ノ調和的私法規定ヲ設ケテ居ル。即チ最近ノ「モラトリウム」法ハ、往昔ノ如ク權力者ノ命令ニ非ズシテ、一

ノ私法法規ナルヲ以テ、「支拂猶豫」ト云フガ如キ公法的用語ヲ避ケ、私法方面ヨリ、例之、「履行期ヲ繰延ブ」トカ、「支拂猶豫ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得」トカ規定スルヲ、遙カニ適當ト看做サナケレバナラス。

【註一】 本稿一三頁參照。

世界大戰ニ際シ、英、獨ノ「モラトリウム」法ハ、從來ノ形式ヲ打破シ、私法方面ヨリ「滿期日ノ繰延」ヲ爲ス旨ヲ規定シテ一切ノ疑義ヲ去ツタノデアル。我兩度ノ延期令ガ、此等ノ先例ヲ顧ミルコトナク、舊套ニ墨シテ「支拂延期」ナル用語ニ遵ヒ、爲メニ解釋上ノ疑義ヲ貽シタノハ洵ニ遺憾デアツタ。

第二 施行前、既ニ辨濟期ノ到來セル債務ニ關スル規定ヲ缺キシコト。

我延期令第一條ノ正面解釋トシテハ、施行前既ニ辨濟期ノ到來セル債務ニ對シ適用ナキハ明カナルモ、此等債務ニ適用スルノ必要アリ、司法當局モ此見解ニ一致セルコトハ既ニ述ベタ所デアル。【註一】 元來此等債務ハ施行前既ニ辨濟期ノ到來セルモノナレバ、其猶豫期間ニ就テハ別段ノ規定ヲ必要トスル。即チ世界大戰ニ際スル奧地利「モラトリウム」法ハ、之レニ對シ、別ニ施行期間終了ノ翌日迄支拂ヲ猶豫スル旨ヲ規定シ、又英國ノ第一回勅令 First general proclamation ハ、同ジク施行期間終了ノ翌日(九月四日)ニ滿期日ノ到來スルモノト看做ス旨ノ規定ヲ設ケタノデアツタ。【註二】 我延期令ハ、カ、ル趣旨ノ規定

ヲ必要トナシナガラニ、兩度トモ之レヲ缺イテ居ル。起草者モ此點迄ハ氣付カナカツタモノト見エル。

【註一】 前段ニ五頁參照。

【第二】 我兩度ノ延期令ニ於テモ、施行前ニ辨濟期ノ到來セル債務ヲ施行期日開始ノ日ニ「支拂ヲ爲スベキ」債務ト解スルナラバ、同様ニ、施行期間終了ノ翌日迄支拂ガ延期セラレタコト、ナル。

第三 手形債務ニ別段ノ規定ヲ設ケザリシコト。

手形債務ハ、各個ノ手形行爲ニ因リ獨立ニ發生スルモノナレバ、一ノ手形ニ於テモ、各手形關係者ノ手形債務ノ發生時期ハ夫々異ナル。從ツテ手形行爲ノ時期ガ延期令施行ノ前又ハ後ナルニ因リ、同一ノ手形ヨリ生ズル手形債務ニテ、「支拂猶豫」ノ適用ヲ受クルモノト、受ケザルモノトヲ生ズル。例之、今回ノ延期令ニ就テ云フナラバ、四月二十二日以前ニ振出サレ、同日ヨリ五月十二日迄ノ間ニ滿期日ノ到來スル爲替手形ニテモ、引受人ノ引受ガ四月二十二日以後ナルトキハ、其支拂義務ニハ「支拂猶豫」ガ適用セラレヌ。何トナレバ、引受人ノ支拂義務ハ引受ニ因リテ發生シ、其引受ハ延期令施行後ニ行ハレシガ故デアル。此クノ如クンバ、同一手形ニテアリナガラ、手形所持人ノ引受呈示ノ遲速ニ因リ、引受人ノ利害ニ重大ナル影響ヲ及ボスコト、ナリ、延期令ノ施行ニ因リ引受拒絕ヲ誘發シ、反ツテ財界ヲ不安定ナラシムル虞レガアル。更ニ施行前既ニ引受アリタリトスルモ、其支拂拒絕ニ因リテ發生スル前者ノ償還義務ハ同ジク、施行後ニ發生シタル債務トシテ「支拂猶豫」ノ適用ヲ蒙

ラス。

如上ノ不合理ヲ生ズルハ、手形債務ガ其他ノ債務ト著シク異ナルニ因ル。去レバ「モラトリウム」法トシテハ、手形債務ニ關シテハ別ニ規定ヲ設ケ、同一手形ヨリ生ズル手形債務ヲシテ一齊ニ「支拂猶豫」ノ適用ヲ受ケシムル必要ガアル。各國ノ立法例ガ、特ニ手形ニ對シ「満期日ノ繰延」ヲ爲ス旨ノ明文ヲ設ケタルハ此故デアル。我延期令ニ、カ、ル趣旨ノ規定ヲ缺キタルハ重大ナル缺點ト云ハネバナラス。

四 第三條ノ規定ハ、今回ノ延期令ニ於テハ不用ナルカ、然ラズンバ行文其當ヲ得ヌ。

履行期繰延説ニ據ルナラバ、手形保存行爲ハ新満期日又ハ其後二日以内ニ爲スベク、猶豫期間内ニハ、之レヲ爲シ得ザルヲ以テ、第三條ノ規定ハ全ク不用ニ歸スル。元來、本條ハ、戰爭其他ノ事變ニ因リ、手形上ノ權利保存行爲ヲ爲シ得ザル場合、其期間ヲ延長スルノ規定ニシテ、世界大戰ニ際スル英、獨、澳等ノ「モラトリウム」法ニモ、其趣旨ニ於テ設ケラレテ居ル。【註一】然ラバ、前回ノ如ク震災地域ニ於ケル秩序破壊シテ、權利保存行爲ヲ爲スコト不可能ナリシ場合ニハ、本條ノ規定ヲ設クル必要アリシモノデアルガ、今回ノ如ク、單ニ經濟的「パニック」ニ止マリ、權利保存行爲ニ何等ノ支障ノ存セザルニ、尙本條ヲ存置セルハ全ク無意味デアル。

【註一】 本誌第三卷拙稿一三〇頁以下參照。

尤モ手形行爲ニ不可抗力ヲ認メザル我手形法ノ下ニ於テハ、若シ抗辯權說ニ依ルナラバ、猶豫手形ニ對シ、其猶豫期間丈權利保存行爲期間ヲ伸長スルノ必要アルモ、其趣旨ノ規定トシテハ、行文頗ル其當ヲ得ザルノミナラズ、一部ノ見解ノ如ク、猶豫期間内何時ニテモ、任意支拂ナキコトヲ條件トシテ、支拂拒絶證書ヲ作成シ得ル權利ヲ創設シタル規定トハ到底考ヘラレヌ。【註一】

【註一】 前段二一頁、東京地方裁判所ノ部長協議會ニ於ケル意見ノ反駁參照。

要之、本條ハ、孰レニセヨ、不用ニ非ズンバ、適切ナラザル規定ト云ハナケレバナラス。

VIII. 結 語

嚮ニ樞密院ガ、違憲論ヲ盾ニ若槻内閣ノ提出シタ臺灣銀行救濟案ヲ否決シタルヲ切掛トシテ、我國未曾有ノ「パニック」ヲ捲起シ、遂ニ支拂延期令ノ公布ニ依ツテ鎮靜セシ、其經過ヲ今ヨリ回顧スルナラバ、何人ト雖モ茫然夢ノ如クデアラウ。「モラトリウム」ノ效能著大ニテ、サシモノ恐慌モ案外ニ事ナク鎮靜シタノデアルガ、之レガ爲メ我國民ノ有形無形ニ蒙レル損害ハ實ニ計リ知レヌ。如何ナル計算ノ基礎ニ據レルカ不明デアルガ、當時ノ新聞紙ハ、支拂延期令ノ施行ノ爲メ我國財界ノ蒙レル損害ヲ二十億圓ト傳ヘテ居ル。此「パニック」ニ際會シ、果

シテ「モラトリウム」法ノ施行止ムナカリシカ、將タ他ニ執ルベキ良策アリシヤハ、吾人法律學徒ノ知ラザル所、且ツ其研究圏外ト爲ス所デアアル。併シナガラ法律學徒トシテ我支拂延期令ヲ通觀スルナラバ、法規トシテ到底觀過シ難キ不備ト缺陷トヲ餘リニ多ク發見スルノデアアル。

我國兩度ノ延期令ハ、條文トシテ殆ンド同一デアアル。大正十二年ノ際ハ、我國最初ノ「モラトリウム」法デアリ、且ツ大混亂ノ眞中ニ起草セラレシモノトシテ寧ロ大出來トモ云フベキデアッタ。併シナガラ初メテ、此非常立法ニ直面シタ我國法曹ハ、僅カ三ヶ條ノ條文ヲ以テシテハ、次々ニ起ル法律上ノ諸問題ニ就テ、是レト纏ツタ意見ヲ吐露スルコト能ハズ、茫然タルノ状態ニ在ツタ。唯、幸ニモ當時人心ノ安定、金融ノ復活案外ニ速カナリシト、此天災ニ遭遇シテ一時的ナガラ我國民性ナル互讓的精神ノ發揮セラレシガ爲メ、別段、著シキ難問ガ起ルベクシテ起ラナカッタノデアアル。

其後數年ヲ經過シタ。其間司法當局ニ於テハ、充分ノ研究ヲ積ミ、非常ニ際スル豫メノ準備モアルコト、信ジタルニ、此度公布セラレシ延期令ハ、依然トシテ嚮ノ延期令其儘デアアル。洵ニ驚キ入ツタ次第デアアル。今回ハ經濟界ノ「パニック」ヲ原因トスル全國的ノモノナレバ、大正十二年ノ如キ幸運ナル結末ハ到底望ミ得ラレヌ。恐ラク今後幾多ノ紛争ガ全國的ニ捲キ起ルコトデアラウ。貧弱ナル延期令ノ規定ヲ運用シテ、其解決ノ衝ニ

當ル我裁判官、辯護士ノ任、難クモ亦重イ哉デアル。

参 考 書 目

1. 今回ノ延期令ニ關スルモノ

1. 宇都宮鼎氏 Moratorium ニ就テ (早稻田政治經濟學雜誌第七卷)
2. 遊佐慶夫氏 「モラトリウム」法ノ要旨 (インヴェストメント第五卷第五號)
3. 拙稿 「モラトリウム」ノ沿革ト其法理 (早稻田學報、昭和二年六月號)
4. 「モラトリウム」實施期間中ノ利息 (法律新聞第二六九一號)
5. 竹野竹三郎氏 日本モラトリウム法論

II. 本誌第三卷拙稿「参考書目」ニ掲載洩ノモノ

1. 十龜盛次氏 各國「モラトリウム」ニ就イテ (東京經濟雜誌第七〇卷第一七七〇、一七七八號)
2. 堀江歸一氏 支拂猶豫法ノ結末如何 (エコノミスト第一卷第十三號)
3. 齋藤常三郎氏 支拂猶豫制度ノ種別ニ就テ (法學論叢第一二卷第一號)
4. 小野實雄氏 單ニ支拂猶豫ヲ乞フ場合ト認諾判決 (法律新聞第二四〇七號)
5. 今村恭太郎氏 震災後ノ私權保護ニ關スル善後策 (法律新聞第二一六七號)
6. 十龜盛次氏 英國一般支拂猶豫條例ノ解説 (東京經濟雜誌第七〇卷第一七七七號)
7. 加納久朗氏 米國出征軍人軍屬及其家族ノ保護ヲ目的トスル「モラトリウム」ニ就テ (國家學會雜誌第三二卷第四號)
8. 岩崎博氏 英、獨、佛ニ於ケル「モラトリウム」ノ一斑 (銀行研究第五卷第三號)
9. Mayer, A.: Zur Geschichte und Theorie des Moratorium, (Schmoller's Jahrbuch, Jhg. 1915.)

延 期 令 條 文

◎昭和二年四月二十二日緊急勅令(第九六號)

朕爰ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ私法上ノ金錢債務ノ支拂延期及手形等ノ權利保存行爲ノ期間延長ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條 昭和二年四月廿二日以前ニ發生シ同日ヨリ同年五月十二日迄ノ間ニ於テ支拂ヲ爲スベキ私法上ノ金錢債務ニシテ勅令ヲ以テ指定スル地區内ニ住所又ハ營業所ヲ有スル債務者ノ負擔スルモノニ付テハ二十一日間其支拂ヲ延期ス但シ債務者ガ其ノ地區外ニ他ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ該營業所取引ニ關スル債務ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 左ニ掲グル支拂ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セズ

- 一、國府縣其ノ他ノ公共團體ノ債務ノ支拂
- 二、給料及勞銀ノ支拂
- 三、給料及勞銀ノ支拂ノ爲ニスル銀行預金ノ支拂
- 四、前號以外ノ銀行預金ノ支拂ニシテ一日五百圓以下ノモノ

第三條 手形其ノ他之ニ準ズベキ有價證券ニ關シ昭和二年四月二十二日ヨリ同年五月十二日迄ノ間ニ第一條ニ規定スル地區内ニ於テ權利保存ノ爲ニ爲スベキ行爲ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ時期ヨリ二十一日内ニ之ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ有ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎昭和二年四月二十二日勅令(第九七號)

昭和二年勅令第九十六號第一條ノ規定ニ依リ指定スル地區左ノ如シ

内地、朝鮮、關東州(南滿州鐵道附屬地ヲ含ム)及樺太ニ改ム(昭和二年四月二十五日勅令第九八號ヲ以テ朝鮮以下ヲ追加シ同日ヨリ施行ス)

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎大正十二年九月七日緊急勅令(第四〇四號)

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ私法上ノ金錢債務ノ支拂延期及手形等ノ權利保存行爲ノ期間延長ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條 大正十二年九月一日以前ニ發生シ同日ヨリ同年同月三十日迄ノ間ニ於テ支拂ヲナスヘキ私法上ノ金錢債務ニシテ、債務者カ東京府、神奈川縣、靜岡縣、埼玉縣、千葉縣及ヒ震災ノ影響ニ因リ經濟上ノ不安ヲ生スル虞アル勅令ヲ以テ指定スル地區ニ住所又ハ營業所ヲ有スルモノニ付テハ三十日間其ノ支拂ヲ延期ス但シ債務者カ其地區外ニ他ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ該營業所ノ取引ニ關スル債務ニ付キテハ此ノ限ニ在ラス

震災ノ影響ニ因リ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ハ大正十二年十月一日以後ニ支拂ヲ爲スヘキ私法上ノ金錢債務ニ付テ適用スルコトヲ得

前項ノ規定中三十日ノ期間ハ之ヲ延長スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル支拂ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

- 1、 國、府、縣其ノ他ノ公共團體ノ債務ノ支拂
- 2、 給料及勞銀ノ支拂
- 3、 給料及勞銀ノ支拂ノ爲ニスル銀行預金ノ支拂
- 4、 前號以外ノ銀行預金ノ支拂ニシテ一日百圓以下ノモノ

第三條 手形其ノ他之ニ準スヘキ有價證券ニ關シ大正十二年九月一日ヨリ同年同月三十日マテノ間ニ第一條ニ規定スル地區ニ於テ權利保存ノ爲ニ爲スヘキ行爲ハ其ノ行爲ヲ爲スヘキ時期ヨリ三十日內ニ之ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ有ス第一條第二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎大正十二年九月二十七日緊急勅令(第四二九號)

大正十二年勅令第四〇四號第三條第一項ノ規定ハ手形其ノ他之ニ準スヘキ有

價證券ニ關シ大正十二年十月一日ヨリ同年同月三十一日迄ノ間ニ同令第一條ニ規定スル地區ニ於テ權利保存ノ爲ニ爲スヘキ行爲ニ付之ヲ適用ス同令第三條第一項中三十日ノ期間ハ手形其ノ他之ニ準スヘキ有價證券ニ關シ大正十二年九月一日ヨリ同年同月三十日迄ノ間ニ同令第一條ニ規定スル地區ニ於テ權利保存ノ爲ニ爲スヘキ行爲ニ付テハ之ヲ六十日ニ延長ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

支拂猶豫令ニ關スル司法省ノ通牒

司法省民事局民事第三三五〇號

昭和二年四月二十八日

司法省民事局長 池田寅二郎

地方裁判所長御中

昭和二年四月廿二日勅令第九十六號ノ適用ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ今般左記ノ通省議決定致候間御參考迄ニ及通牒候也

- 一、四月廿二日以前ニ支拂期日ノ到來シタル債務ノ辨濟ヲモ拒絕スルコトヲ得其猶豫期間ハ同日ヨリ起算ス
- 二、支拂猶豫期間中ト雖モ支拂ヲ命ズル判決ヲナシ又ハ支拂命令ヲ發スルコトヲ得
- 三、右期間内ハ執行文ヲ付與スルコトヲ得ルモ強制執行又ハ競賣ヲナスコトヲ得ス既ニ執行ニ着手シタル事件ハ爾後ノ執行ヲ停止スベキモノトス

福島地方裁判長ノ問合ニ對スル回答

第一項 前記通牒第一、二、三項ト同文

第二項 尙問合面第三ハ各支拂期日到來ノ日ヨリ起算スベシ（同所長問合、第三、同條中二十一日ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算スベキヤ將々支拂期日到來ノ日ヨリ起算スベキヤ）